

※今月のみ受注の書目です。

中国政治／中国史

慶應義塾大学法学研究会叢書 96

中国共産党と三峡ダム

国家プロジェクトの政治過程

(2025 年 5 月上旬刊行予定)

林秀光 (慶應義塾大学法学部教授) [著]

A5 上製／700 頁 税込予価 12,430 円 ISBN978-4-7664-3031-8 C3031

👉 ココに注目！

- ・ 中国の威信をかけた巨大ダム開発プロジェクトはいかに成されたのか？
- ・ 三峡ダム計画の構想から決定までの 100 年にわたる歴史を通観する。

国家百年の計は、いかにして実現したのか？ 世界最大の水力発電所を擁する長江三峡ダム。孫文による構想から百年、国家の威信をかけた巨大プロジェクトは紆余曲折を経て、こうして決定された。政策が決まる構造を解き明かし、資源、リスク、および権力の関係を描き出す。

対象 (中国政治研究／中国近現代史を専攻する) 研究者

類書 三品英憲『中国革命の方法』(名古屋大学出版会)

【営業部からのおすすめポイント】

本書で扱う三峡ダムは、日本で言う黒部ダムのように、中国という国を代表するダムと言えるかと思います。20 世紀前半には計画されながらも、実際に建設が決定するのは 1992 年まで待たねばならなかったのは何故なのか。その政策過程における紆余曲折を、水害対策や安全保障、水力開発などのさまざまな側面から読み解きます。

(乙子)

👉 主要目次、注文書を裏面に掲載！ ぜひご確認ください！

【主要目次】

序 章

第一章 本書の分析視角——資源、リスク、および権力の再配置

第一部 三峡ダム計画の始動と停滞

第二章 三峡ダム計画の登場——毛沢東の示唆と「治江三段階」案の改定

第三章 水力発電部門の成立と三峡ダム計画における立場

第四章 一九五四年長江大洪水と三峡ダム計画

第五章 一九五八年南寧会議と三峡ダム計画

第六章 一九六〇年代三峡ダムの安全保障への懸念による停滞

第二部 三峡ダム計画の再浮上とダムサイトの決定

第七章 三峡ダム代替案としての葛洲壩ダム

第八章 三峡ダム計画の「実戦準備」——葛洲壩ダムの再建

第九章 一九七九年水利部党组による三峡ダムサイトの決定——ダム安全保障のパラダイム転換

第三部 三峡ダムの役割の転換——治水から発電へ

第一〇章 一九八〇年代初頭三峡ダム正常貯水位をめぐる動き

第十一章 一九八四年国务院による一五〇メートル案の決定——治水から発電へのパラダイム転換

第十二章 重慶市の提案と新たな正常貯水位の模索

第十三章 一五〇メートル案の撤回決定と李鵬の役割

第十四章 一七五メートル案の決定をめぐる動き

第四部 天安門事件によるパワーシフトの影響

第十五章 一七五メートル案決定後の動きと停滞

第十六章 天安門事件後の推進派の動き——江沢民の登場と影響力

第十七章 全人代での採決をめぐる推進派の動き

終 章



ご注文は FAX で！ 03－3451－3124



返品条件付注文品	番線	ご注文部数	発売所：慶應義塾大学出版会	税込予価	部数
			林秀光 著 慶應義塾大学法学研究会叢書 96 中国共産党と三峡ダム —国家プロジェクトの政治過程 ISBN978-4-7664-3031-8 C3031	12,430 円	★★

★1つで「500部」を表します